聖徳大学創立25周年・聖徳大学短期大学部創立50周年記念

The Future is yours!
健やかに 爽やかに 清らかに
聖徳大学25周年 短大50周年

SEITOKU

聖徳大学言語文化研究所主催　**比較言語文化論シンポジウム**

動物を表すことばと動物のイメージ

日本語・英語・フランス語・中国語・韓国語

内容

太古から、人類は動物とともにあり、動物は人類とともにありました。例えば、犬。犬は、番犬として、狩猟犬として、牧羊犬として、また、愛玩犬などとして飼育されてきました。牛は、役牛・肉牛・乳牛として品種改良され、家畜として人の役に立ってきました。

しかし、人と動物との関わり方は、民族によって、そして、動物の特性によって異なります。その違いと、その動物が持つ本性とが、それぞれの民族に特有の動物イメージを作っています。日本語では温和で、時に間抜けな（「兎兵法」）イメージのある兎は、それを狩猟対象とした古代中国では行動の敏捷・迅速なことを比喩する動物として、一方、英語では、多産・再生・復活をイメージする動物として捉えられています。

日本語・英語・フランス語・中国語・韓国語には、動物と動物を表すことばにどんなイメージが凝縮されているでしょうか。それぞれの言語に特徴的な事例に焦点を絞って考えます。

日時　平成28年**2月6日**（土）13:00～15:00

会場　**聖徳大学10号館14階**
千葉県松戸市松戸1169　JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

定員　**70名**（事前申込不要）

後援　松戸市教育委員会

パネラー

林 史典
（聖徳大学言語文化研究所長）

ピーター ヴィンセント
（聖徳大学語学教育センター教授）

アラン メドウズ
（聖徳大学語学教育センター准教授）

クリスティアン ブティエ
（聖徳大学人文学部英米文化学科准教授）

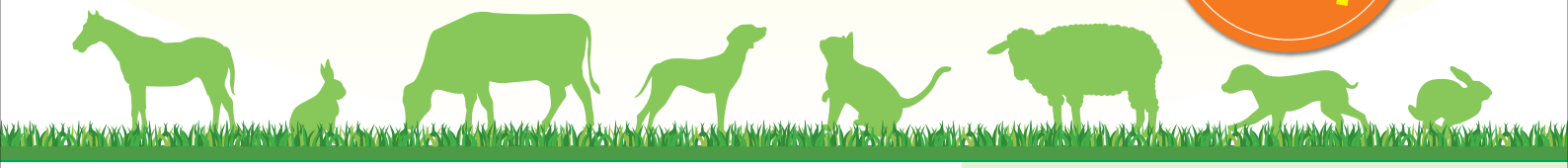
李 哲権
（聖徳大学文学部文学科准教授）

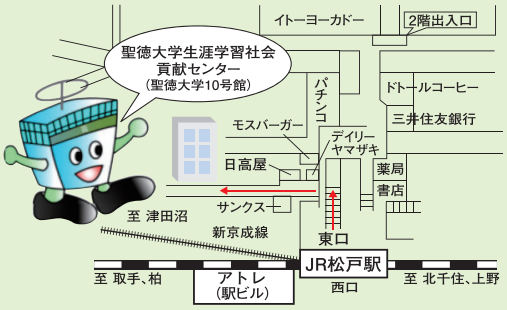
森 貞美
（聖徳大学児童学部児童学科准教授）

司会

北村 弘明
（聖徳大学言語文化研究所教授）

参加費無料



お問い合わせ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所（知財戦略課）
〒271-8555　千葉県松戸市岩瀬 550
電　話：047−365−1111（大代表）
http://www.seitoku.ac.jp/chizai/event